

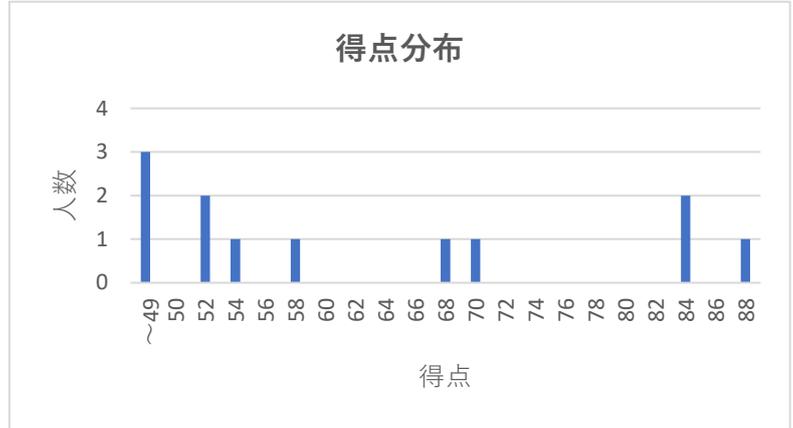
令和4年度第1回 イベントディレクタ認定試験 講評

1. 実施概要

- ・ 実施期日 令和4年9月10日～20日
- ・ 選択式
- ・ 受検者 12名
- ・ 認定者 5名

2. 認定点

- ・ 認定点 60点（100点満点）
- ・ 最高点 88点
- ・ 平均点 62点



3. 総評

回答にあたっては、講習資料をよく読んで、規則やガイドラインを正しく理解していることが求められる。また、全日本や公認大会といった正式な競技会を前提としていることに留意して回答する必要がある。合格者の割合は予想したより少なめであったが、80点以上の高得点者もあり、称賛に値する。得点が伸びなかった者には、あらためて講習資料を読み直すとともに、自身の経験や常識が、競技規則を適切に解釈すると必ずしも正しくなかったということに気づいてくれることを期待している。

4. 設問のポイント解説

以下に誤答の多かった設問のポイントを列挙する。

- ・ プリテン 2,3,4 はイベント・アドバイザーの承認が必要である。
- ・ 同じ大会、同じトレインで、若いクラスはミドル・ディスタンス競技、高齢者クラスはロング・ディスタンス競技を実施するようなことは可能。また、ミドル・ディスタンス競技を ISSPrOM の地図で開催することも可能。
- ・ 年齢・性・技能によりクラスを分ける。B クラスでは距離でクラス分けをしてもよい。小学生のクラスでは A/B の区分はしない。小・中・高校生は年齢に合った強度のクラスで競うことが望ましく、上にクラスに出場することは特別な例外である。
- ・ リレー競技においては、優勝設定タイムは各走区で最も速い者の合計である。各チームで走区毎のパターンを変えるが、全体としては同じレグを走るようにする。長い走区や短い走区といったバリエーションをつくってもよいが、チームによってその並びが変わってはいけない。チームとして失格を受け入れたら、後続の競技者は出走できない。
- ・ 地図図式は、基本的に国内でも IOF の規程をそのまま使うので、違いはない。
- ・ ISOM も ISSPrOM 地図図式は地図に記載する記号を定義しているもので、どれが通過禁止の特徴物になるのかは、競技規則で定義する。同じ通行困難の記号でも、ISOM では通過可能、ISSPrOM では通過禁止となるものがある。
- ・ バタフライ・ループを採用したり、リレーでフォーキングするときには、コントロールを回る順番が逆にならないように注意する。
- ・ 競技規則違反は、状況によっては必ずしも失格になるとは限らない。一方で、違反した場合の措置が規則に記載されていない限り、いかなる違反であっても失格になりうる。
- ・ EMIT の場合、E カードに記載されるのは通過時間である。SI チップは電源がなくても稼働する仕組みになっている。

- ・コントロールを設置するにあたっては、不公平・偶然性を排除することが肝要。要求される精度でナビゲーションすることで到達できるのであれば、穴の中においていけないという決まりはない。
- ・イベント・アドバイザーが、すべてのコントロールの設置確認をすることは無理。誰がどのように確認したかを把握することが大切。
- ・海外からの参加者のために、初心者クラスでも位置説明は IOF 記号を併記する。
- ・観客が外野から何を言ったとしても、それを制御することは不可能。
- ・裁定委員会では、当事者から意見を徴収することは重要である。最終決定をする際には、EA と委員以外を離席させてもよい。
- ・JSAA に申し立てがあったときには、JOA は必ず受け入れることを、すでに宣言している。

5. 設問の修正

以下の設問については、設問として適切でなかったと判断し、不利益を被った者には加点することとしました。

設問	正解	理由
11 開催地の自治体から開催許可を取ることは <u>必須ではないが</u> 、後援を得られると資材の貸し出しなどメリットが大きい。	○	教材では、開催地の自治体から開催許可を取りことが必須であるように、解釈できる。
15 スプリント競技においては、E クラス出場に例外的な推薦があってよい。(陸上など他の競技からオリエンテーリングに競技者を誘導するため、 <u>特に優秀な陸上選手にスプリント競技の E クラスに例外出場させる、など。</u>)	○	E クラス推薦におけるスプリント例外が、教材に具体的に記載されていない。
22 大会開催が決まったらテレインを閉鎖し、すでに練習会などで使用する予定があった場合でも、 <u>一切禁止しなければならない。</u>	×	テレインを閉鎖するかどうかについて、教材の中に明確に記載されていない。
24 ISOM および ISSprOM では、どれが <u>立入禁止に相当する記号か</u> ということは定めていない。	○	通行禁止は地図図式でなく競技規則で定めることになっていることを理解しているかを問う設問であったが、立入禁止の記号そのものは図式にある。

6. 最後に

初めての試験であったため JOA としても試行錯誤のところがあった。競技規則を深く理解しているかどうかを問うため、正解を複数にしたりと難しめに設定したが、むしろ試験を通じて重要なポイントをおさえることに重きをおき、基本重視の試験にすべきであったかもしれない。今後 JOA 内で改善について議論していきたい。